

## 第3グループ（文化・コミュニティ活動）

### まえがき

「すべての人が心豊かに住めるまち、人と人とのきずなを大切にするまち、文化を育む創造性豊かなまち」を目指します。

そのためには、コミュニティ活動の推進と充実がより重要であり、コミュニティの構築を図る事が、千里ニュータウンの再生および活性化の中軸であると思います。

### ．コミュニティに対する千里の住民意識

千里は新しく作られた街なので、地方の様な縁側交流や、旧来の井戸端会議のようなものが全くなく、近隣において人と人との交流が出来にくい構造になっています。特に集合住宅においては鉄の扉に閉ざされた、いわゆる「団地族」と呼ばれる独特の文化が生まれてきました。

この鉄の扉を開放し、近隣の人々がお互いに心を開き、交流しあう事で信頼感を深め、地域の連帯感をも育む事となり、新しい千里のまちづくりに繋がるものと思います。

近隣との交流を望まない人が多い。

特に集合住宅においては、プライバシーを主張するあまり、人と関わる事を好まない人が多いように思う。自治会組織率も低く、特に公団住宅においては平均50%以下の状況の地域もあります。

人の世話をする人（地域役員やボランティア等）が他の地域より極端に少なく、世話をする人と、世話をしたくない人とのギャップが著しい。

千里を「ふる里」と思える住民意識が低く、子どもたちが成長しても千里に留まらず、他の都市へ移ってしまう。

このような状況の中で、文化・コミュニティ（人と人との交流、人と地域との交流）は、一人の人を大切にする民主的な活動でなければなりません。個人のプライバシーを尊重しながら、文化・コミュニティ活動を積極的に展開することが、地域の活性化につながります。そのためには、住んでいる人の理解を得ながら、千里の再生・新しい「まちづくり」をめざしたい。

## ・人と人との交流

### 1. 子どもと地域

子どもは地域の宝であり、地域全体で育成していく。

子育て支援(現在、保育園等で実施されている幼児親子対象の子育て支援や、虐待児相談、病児保育の一層の充実を望む)。

子ども会の育成指導の改革(イベントのあり方など、大人がすべてをお膳立てするのではなく、子どもに主体性をもたせ「子どもが自ら生きる力を育みながら、地域における教育力の創造」を目指したい)。

子ども社会に縦の関係の構築(子ども会の自主的な活動を通じて、地域の子ども社会に縦の関係が生まれるように積極的な配慮をする)。

学校と地域(学校の情報を地域に積極的に公開し、地域の住民だれもが気軽に学校を訪問できるようにする)。

### 2. 若者と地域

今、千里で最も欠けているものに、若者の参加が少ないこと。

地域のあらゆるところにもっと若者が参画しやすいような環境を整える。  
青年会の育成。

### 3. 高齢者と地域

高齢者の地域活動(もっと地域に出て活動していただく)。

若い世代との交流(三世代、四世代交流)。

### 4. 障害者と地域

ノーマライゼーションとコミュニティ(障害者が地域の中で健常者と共に当たり前前に生き、生活出来るようにするための条件づくりを)。

地域に障害者のグループホーム作りや生活支援。

地域において障害者のシビルミニマムの確立。

障害児の豊かな放課後の保障(学童保育の充実)。

道路、住宅をはじめ、公共施設のバリアフリー化の推進と強化。

障害者や高齢者に対する総合的なユニバーサルデザインの策定。

### 5. 生涯学習と地域

千里の歴史とまちづくりについて、学校の空き教室などを利用し地域学校の開設。

地域単位での学習会の開催。

## ・イベントの現状と新しいイベントの創造

各住区においては、盆踊り、市民体育祭などが定着しています。千里全体の取り組みとしては、千里ニュータウン少年野球大会、千里ニュータウンこどもスポーツ大会、千里こどもカ-ニバル、よっといで祭り等が成功している。

その他、福祉委員会、体育振興会、青少年対策委員会など、各種団体主催のイベントもそれぞれ定着している。

今後望まれるのは

千里がひとつになれるような、例えば「千里まつり」のようなものを年一回開催したい。

北千里地区と南千里地区、また豊中地区との連携。

「ふる里・千里」の創造。

## ・ 文化的環境の確立

千里に限らず「文化面」はスポーツ面に比べ振興が遅れている。スポーツ同様文化の振興がコミュニティの活性化につながる。また、千里在住の文化人やプロの芸術家等の協力を得て、広く文化芸術の環境を整える。

文化、芸術、学術の交流促進（大阪大学を始め、万博公園内の学術施設等千里近郊の恵まれた環境を活用した市民大学等の開催）。

文化、芸術を育成。また、千里在住の文化人、芸術家との交流促進（市民講座やカルチャースクール等の開催）。

文化、芸術を中心としたイベントの開催（街角美術展や街角コンサートなどの小さなイベントから、千里美術展、千里音楽祭などの継続的に行えるものを開催）。

国際的な文化、芸術、学術の交流（海外からの留学生などとの交流）。

## ・ 自治会活動の展望

現在の自治会は行政の連絡機能的なところもありますが、唯一全住民をまとめた組織であり、その存在はますます大きな役割を担っています。

将来の展望としては

自治会の会則の見直しを図る（特定の人が長期間同じポストに就き、そのため地域内の多くの優れた人材の参画が阻まれるようではいけない）。

住区内のイベントは、自治会役員が取り仕切るのではなく、広く住民が自由に参画できる環境を整える。

役員経験者で現在未活動の人や、地域外で活躍している人の参画を促す（いろんな人材を発掘する）。

防災に強い住区の構築と、いざという時のシステムを確立する（情報を的確にそして迅速に住民に伝達する）。

団地における自治会未加入会員への対策。

若者に活躍の場を与える（若者の参加を呼びかける）。

## ・ 各種団体の活動

それぞれの団体が独自のイベントを実施されており、さらにきめ細やかな取り組みをしていただくと共に、自由な発想で活躍するグループの誕生を推進していきたい。

団体間の交流を図る（ネットワークの推進）。

既定の団体に属さない、ボランティア活動やNPOなど各種グループ活動の推進、福祉サービスの充実。

コミュニティビジネス、地域での仕事起こしなどを推進（近隣センターの空き店舗などを活用し、住民生活のサポートやセーフティーネットが行える環境の整備）。

## ・住民意識の高揚とまちづくりへの住民参加

で申し上げたように、千里に住む人全員が「私は千里の人」である、また、「私のふる里は千里」です、と誇りをもって言えるように、住民意識を高めていくことが大切である。

そのためには

情報の提供、発信（PRの研究と方法）

町づくりへ住民の参画のシステムづくり（住民協議会的なもの）

コミュニティの拠点として、南北千里に1ヶ所ずつのコミュニティセンターの早期設置。

公民館や市民ホールの利用規定を緩和し、住民であればもっと自由に利用できるようにする。

## ・夢のあるまちづくりへ

既成のものにとらわれず、自由奔放に発想ができるようなまちをめざす。

千里は多数の学生が通過するまち。この若者たちが好んで集まる環境を作り出せないか。活気のある楽しい若者のまちの創出。

小さな公園を里山にして、住民の手による果樹の森（例えば桃山台には桃の木、青山台には柿の木を植える）また、お花畑などをつくり、近隣の人たちが自由に世話ができるようにして、うるおいのあるまちにする。

若者が自由にたむろできる場所の確保（市民ホールの開放、学校の空き教室の活用など）

集合住宅の建て替え時に、棟毎に小集会室を設け、居住者同志で食事やだらん等が出来るモデル住宅の建設（井戸端会議の推進）

## まとめ

他人と関わりたくない人が多い。「人の世話をするのモイヤだが、世話をされるのモイヤ」といった人達への理解とPR。

IT化が進み、全てコンピュータで処理される時代ですが、そんな時代だからこそ、人の温かみ、人の優しさが必要になってくる。そこでコミュニティ（近隣との友好、交流）が大切である。

井戸端会議（世代を越え）の推進。

地域での子どものガキ大将を推進し、縦社会を構築する。

乱雑な開発ではなく、整然とした開発により、人口の増加を図る。

ハード面だけでなく、心のバリアフリー（差別をなくしどんな立場の人とも温かく交流）、心の環境循環型（道に落ちているたばこの吸殻1つが拾える、そんな優しい心を持ち合う）の町を目指したい。

赤ちゃんからお年寄りまで、心の通い合う町「千里」の構築が、千里の活性化及び再生につながるものと思われる。